

生け花 タブレットコンテンツ

次のパフォーマンス：生け花

日本のフラワーアレンジメントの芸術は、^{いけ ば な}生け花または^{か どう}華道と呼ばれています。

ライブデモンストレーションを行う場合、生け花の実践者たちはまず座って慎重に道具を配置します。

素材を吟味し、頭の中で配置を計画した後、彼らはアレンジメントを開始します。

^{いけ ば な}生け花は、その起源を 1,500 年以上さかのぼることができる古典芸術です。

6 世紀に仏教が日本に導入された時、花瓶に入れた花を仏壇に供え、仏前に供えるのが風習となりました。

時間が経つにつれて、この花を供える実践は独立した芸術形式に発展しました。

貴族や教育を受けた仏教の僧侶たちは美しいアレンジメントを鑑賞するための展示会を開催しました。

16 世紀に、僧侶の^{いけのほうせんおう}池坊専応（1482 年～1543 年）は、花を生ける実践に関する規則を成文化しました。

これが、今日知られている^{いけ ば な}生け花の始まりであると一般に考えられています。

^{いけ ば な}生け花は次第にすべての社会階級の人々に人気を博しました。

特に茶人に好まれ、簡素で優美な生け花は茶室の定番の特徴となった。

何世紀にもわたって複数の^{いけ ば な}生け花の流派が設立され、その多くは今日でも盛んで、あらゆる年齢の生徒に教えています。

ここでは、^{いけのほう}池坊と^{さ が ざりゅう}嵯峨御流の師匠がアレンジを創作します。

^{いけ ば な}生け花は、季節性、非対称性、何も無い空間の美しさを強調します。

花と枝の間の空間にも目を引くように配置することへ、多くの考慮が払われています。

いけ ばな
生け花は主に今の季節を表現する植物を使用します。

これには、新しいつぼみ、満開の花、枯れ始めた植物が含まれます。

アレンジが完成すると、床の間のスペースに配置されます。

できたアレンジメントは通常、掛け軸の近く、または部屋に入ったときに賞賛される位置に飾られます。